

# はーとふるるメッセージ

## 2001

### 第5回

#### 特選作品紹介

(学年は、いずれも応募時のものです。)

#### 作文・中学生の部



ふのかわ あやか さん  
(東中学校2年)

#### 心と心のふれあいについて

夏休みに、私は、母の勤務先の夏祭りに出かけました。母は京都の福祉施設で、障がい者のリハビリを行う仕事をしていました。障がい者の人たちの集まった夏祭りには、多くのボランティアたちが、食事や移動の介助をテキパキと行っていました。五十人程度の障がい者に対し、百人以上のボランティアが参加し、また、地域の人たちがバザ

ーや食事を楽しんでいました。

私は、その施設の障がいのあ  
る一人の女性と、以前から文通  
をしていました。母がその場で、  
その女性に親しく声をかけると、  
その人は初対面というのにもか  
かわらず、笑顔で私に話しかけ  
てくれました。それまでワープ  
口で書かれた手紙からは、私は  
彼女の話す言葉やからだの障が  
いの程度は、まったく想像でき  
ませんでした。彼女は車イスに  
乗り、言葉が不自由なため、全  
身を緊張させて、しほり出すよ  
うに声を出しました。何を話し  
ているのか、私にはわかりませ  
んでした。私はあせりました。  
会話が成り立たないからです。  
彼女の言葉が聞きとれないた  
め、顔の表情から何を言おうと  
しているのか、私は必死に読み  
とろうとしました。ところが、  
突然、彼女の思いが、言葉から  
ではなく、直接、私の心に伝わ  
ってきたような気がしたのです。

彼女は、私と会えて、とても  
うれしく思っているようでした。

そのとき、私も、彼女と会えた  
ことを心からうれしく思いまし  
た。実際に、彼女が何を言っ  
ているのか、ほとんど理解できな  
かったのに、言葉を交わす普通  
の会話より、彼女の気持ちがま  
つすぐに私の心に届き、私は深  
く感動しました。

握手をして別れましたが、そ  
のあたたかい感触と笑顔は今で  
も忘れられません。その日のこ  
とは、私にとって、心と心のふ  
れあいということを考えさせら  
れる貴重な体験となりました。

私は、夏祭りでの体験を通し  
て、次のように考えるようにな  
りました。人と人は相手の存在  
を尊重し、思いやる心があれば、  
たとえ言葉が通じなくても、そ  
の気持ちは相手に届き、あなた  
かい関係が築けるのではないか  
と。言葉を越えたまっすぐな思  
いは、必ず相手に強く伝わると

思います。たしかに会話によっ  
て、人は互いの気持ちを早く簡  
単に理解することが出来ます。  
しかし、言葉は心と心がふれあ  
ううえで、絶対に必要なもので  
はないのかもしれませんが、この  
ように考えれば、たとえばまっ  
たく言葉を理解できない外国に  
一人で暮らすようになっても、  
なんとかやっていけそうな気が  
します。

人はさまざまな人とふれあい  
ながら生きていきます。この今  
という時に、地球上のあらゆる  
場所で、いろんな人とふれあい  
ながら生きていく。そして人だ  
けではなく、動物や植物、また、  
季節の風、川のせせらぎからも

言葉を越えたメッセージを聞き  
とる心を持ちたい。そういう姿  
勢でこの二十一世紀を私は歩い  
ていきたいです。

#### 選評

母の勤務先の福祉施設で障  
がいのある人たちとの交流を  
通じて、その初対面の様子を  
感動をもって描いています。  
言葉は不自由でも懸命に心と  
心を通じ合おうとする相手の  
表情から、人は「言葉を越え  
たまっすぐな思い」で「あた  
たかい関係が築ける」と確信  
したことが素直に表現されて  
います。「言葉を越えた地球  
のメッセージを聞きとる姿  
勢」いいですね。

#### ポスター・小学生の部



おはし かえだ さん  
(亀山小学校5年)

